



繪本  
無主物



---

冬の日でした。

寒い寒い日でした。

---

おおきな地震がおきて、

おおきな津波がおそつてきました。

その土地の

おおくのものがこわされて、

おおくのものが

津波にのまれました。



---

地震で、

それまで安全だといわれて、

みながそう信じていた

巨大な人工の心臓が、

こわれ、

かたむきました。

---

こわれた心臓から、  
とじこめられていた

毒が

たくさんたくさん

噴きだして

あたりをひどく

よごしました。



---

名も知られぬおとこたちが、

こわれた心臓をなおすために

駆けてゆき、

名も知られぬまま、

毒をあびました。





みな、ここへ来ていました。

そのおとこは、

じぶんの胃袋につながっている

ふとい人造の動脈に

刀でもって

切り込みをいれることにしました。



切りこんだところから

あたたかな、

栄養のたっぷりある

血が

こぼれおち、

小さな池になりました。

おとこのからだをあたたためて

栄養をたっぷりもたらしていた

その血は、

もともとは、

無数の名も知られぬおとこたちの

ちいさな心臓から抜き取られ、

おおきなおおきな心臓に

あつめられていたものでした。

おおきな心臓は、そうしてあつめられた  
たくさんの血液を

その社会におくりだす役割を  
ずっと、

はたしていたのでした。

そのおとこの胃袋には

おおきな心臓から

のびた

ふとい人造の動脈が

結び付けられ、

おとこのからだを

こやまのように

おおきくして

あたためていました。

冬の日でしたが、

おとこは夏の服を着ていました。

たくさんの血液のおかげで、

彼はとくべつ寒さを感じていなかったのです。



---

大地にまかれた

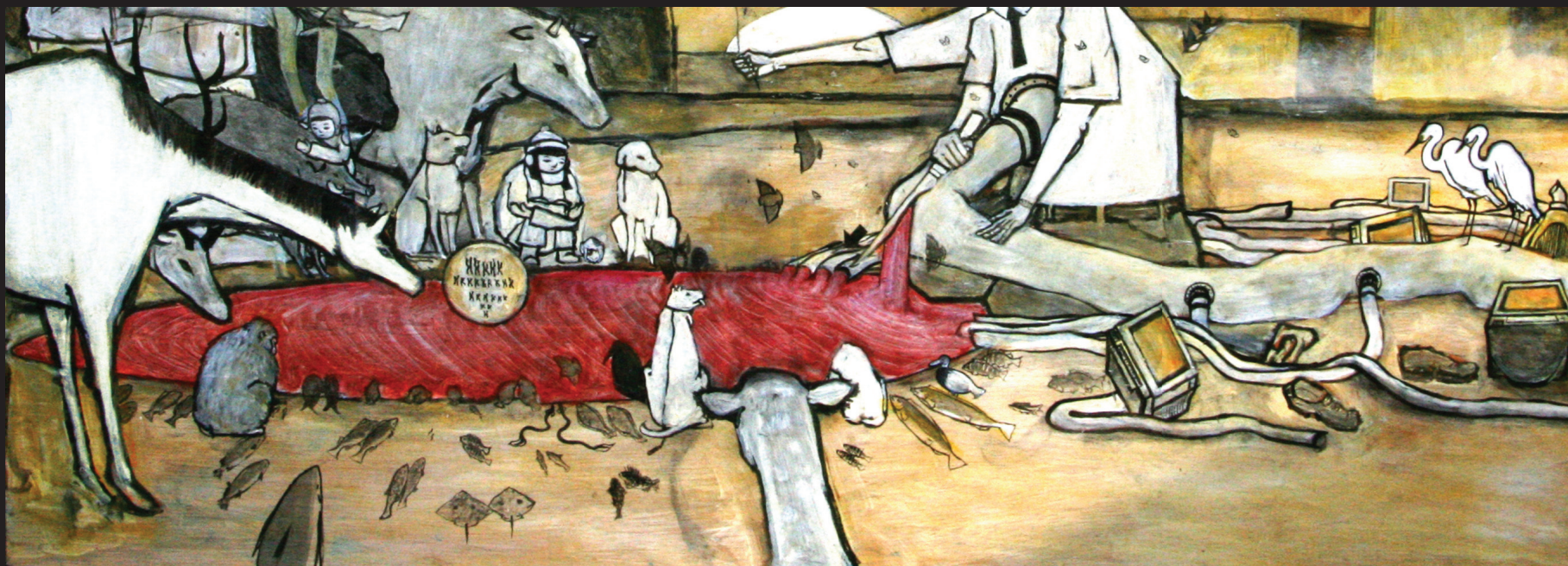
血のぬくみを

たよって、

こごえたどうぶつたちが

あつまってきました。

うし。  
うま。  
ぶた。  
にわとり。  
いぬ。  
ねこ。



いのしし。  
くま。  
しか。  
さる。  
うさぎ。

あいなめ。

すずめ。

あゆ。

くろそい。

つばめ。

にじます。

ひらめ。

さぎ。

いわな。

かれい。

きびたき。

やまめ。

さわら。

おおるり。

うぐい。

くろだい。

かも。

ぎんぶな。

きんめだい。

からす。

なまず。

けむしかじか。

わかさぎ。

こもんかすべ。

どじょう。

しろめばる。

うなぎ。

くろまぐる。

こうなご。

かえる。

すずき。

たら。

蝶のやまとしじみ。

かに。

えび。

鎖につながれていたどうぶつたちは、  
みんな、

飼い主に鎖をとかれて

できたのでした。

毒があんまりばらまかれて

住むことを禁じられた場所で

彼らは飼われていたのでした。

かれらは、

飼い主がその土地をはなれるときに

つれてゆくことができないので

じぶんでたべものをみつけられるようにと

鎖をうまれてはじめて

はずしてもらったのでした。

飼い主が鎖を外しわすれたどうぶつたちは、

たべものがなくて、

しにたえました。



山も毒でよごされて、

こまったやまのけものたちがやってきました。

海にも、やっぱり毒がながれでて、

なやんだ海のさかなたちが

夫婦でやってきました。

川も。

みずうみも。

鳥やかえるや

蝶もやってきました。

どうぶつたちは、

名も知られぬおとこたちと

同じように

たくさん毒を

あびていました。

---

毒はからだをこわすものでした。

とくに

こどものからだをこわすものでした。

---

どうぶつや

さかなの親たちは

こどもがきれいなかたちで

うまれてきてほしいと、

血の池のまわりに

あつまってきたのでした。

おとこが

大地にばらまいた

血の池から

傷のない

いのちの設計図が

うまれていたのです。

それは

人間もおなじでした。



うまれたばかりの

あかちゃんをかかえた

夫婦が

やってきました。



---

福島市のあるおかあさんの話

---

私は福島市に住んでおりました。

家族構成は、子どもが3人と主人。

主人の両親の家の隣に家を建てて住んでおりました。

今は下の2人の子どもを連れて米沢に避難しております。

主人は仕事の関係もあって福島市の自宅におりまして、長男は仙台で暮らしております。

ここに来ていただいた方も、福島のことにとっても関心を持っていただいているということで、本当に感謝しております。

できればみなさんに福島のことを少しでも理解していただけるようによくお話したいと思いますが、私も長く話すのは得意ではないので、勘弁していただきたいと思っています。

昨日はちょうど米沢の中学校の卒業式がありました。

上の娘がちょうど中三で、避難先の中学で卒業式を迎えることができました。

避難しているので普通に生活しているのかとみなさんは思うかもしれませんが、子どもは子どもで納得できないこともあり、親は親で

「ここまでやっているのに」

という感情のぶつかり合いもあり、避難してから半年ぐらいは親子げんかも絶えませんでした。

私が

「避難させたい」

と希望して子どもを米沢に連れてきてしまつて、子どもの人間関係も壊し、家族の人間関係も壊し、私の決断だけでここまでやってしまったので、そのところは心理的にとても不安だったんですけれども、昨日の卒業式で笑顔で笑っている娘を見て、

「よかったな」

とすごく思いました。

これが福島市の中学を卒業させていたらと思うと、自分のできることはやれたのかなと少し思ったところですよ。

福島県は3月11日の地震の後、放射線が高いということで、20ミッシーベルト基準を適用されました。

緊急事態ということだったんですけれども、今年も福島県だけ20ミッシーベルトになっております。

みなさんもし福島市にいらっしゃることがあればわかると思うんですが、この埼玉ほど人数はいませんけれども、本当に普通に生活しています。

マスクもしていませんし、防護服を着ているわけでもなく、みなさん、本当に普通に生活しています。

放射線管理区域を超えるような高線量のところに、子どもたちも赤ちゃんも妊婦も普通に生活しています。

私は子どもを避難させたので、その点は少し楽なんですけれども、安全と思いたいとか、今でも市の広報紙とか、市の公的な講演会では、

「年間100ミリベルトでも安全」

「20ミリベルトだから大丈夫」、

そういう講演がされています。

それを信用している人たちがいたり、経済優先で

「避難させてしまうと自分の経済が成り立たなくなる」

と言う方たちもいたり、

「仕事がなくなってしまう」

とか、そういういろいろな事情を抱えていますので、

「子どもたちだけ避難させてほしい」

と声を上げる方がなかなか少ない、声を上げられない状態になっています。

やはり放射能のことを言っていると

「気にしすぎ」

とか。

どちらかと言うと少数派になってしまっています。

そういうことに敏感な方々は福島から出ていかれましたので、特に今、そういう状況に置かれていると思います。

私は結婚して仙台から福島に来たものですから、福島県に原発が何基あるかも、どこにあるかもまったくわからず、原発の危険性もまったく知らずに生活してきました。

地震の後、テレビの映像で、次々と爆発する原発を見て、映画のような、他人事のような感覚に陥っていました。

避難区域が20<sup>キロ</sup>、30<sup>キロ</sup>と広がった時に、

「私が住んでいる福島市は原発から何<sup>キロ</sup>なんだろう」

と気になって、インターネットで調べてみて、福島駅前で60<sup>キロ</sup>、自宅は65<sup>キロ</sup>しかないということだ、

「ちょっと危ないかな」

とその時は思いました。

その後、3月11日の地震の後に水が出なくなったものだから、私は出社

停止になって、毎日会社に

「今日も出なくて大丈夫でしょうか」という連絡を入れていました。

本当に危ないんだと確信したのが、3月15日に電話した時に、

「本社から『外に出ている人を全部呼び戻せ』という電話があった」

と聞いた時です。

その時に、

「ビニール袋を配られて、『着ているものはすべてビニール袋に入れて、うちの中に入れていないように』という話がきた」という話を聞きました。

その時に、

「福島市でも危ないんだ」

と急に現実に引き戻された感覚に陥りました。

「とにかく子どもだけでもなんとかしなくちゃ」

と。

放射能とか、全然わからなかったんですけども、

「とにかく子どもは」

という意識だけがありました。

16日に友人に電話をしたところ、

「これから子どもを連れて西会津の旅館に避難する」

と聞き、

「私もそこに行きたい」

と言いました。

主人はそのころは仕事で家にも全然帰って来られなかったんですけども、主人に

「子どもたちを連れて、西会津に避難したい」

と話したら、主人は

「連れて行って」

と言ってくれました。

ですが隣に住んでいる主人の両親には

「近所の人みんなここににいるのに、なぜお前たちだけ逃げるんだ」

と言われて、

2時間ほど、

泣きながら抗議して、

避難できることになりました。



3時間ぐらい、  
雪の中を

震える手で運転して、  
西会津に逃げました。

それ以降、毎日、ガソリンスタンドに5時間ほど並びました。  
それ以外の時はずっとテレビに釘付けで、

「早くなんとか収束させてほしい」、  
それだけを願っていました。

テレビから目を離すことができませんでした。

子どもの友達も主人も福島市にいましたし、気持ちとしては

「本当になんとかしてほしい」

と心から願ってテレビを見ていました。

その後、仙台の妹の家へ行きました。

仙台も地震がひどかったんですけれども、水が出るようになったので、子どもたちを仙台に連れて行きました。

そして

「学校が始まるまでは福島に帰ってこないでほしい」

と言って、私は仕事が始まったので、私だけ3月22日に福島に戻ってきて仕事に出ました。

私は毎日テレビから情報を得ていたんですが、20日過ぎぐらいに、原発の話ではなく、首都圏の計画停電の話がメインで流れるようになって、今の原発の状況がまったく流れなくなりました。

爆発して何日もたたず、収束もしていなくて、まだここにたくさんの人たちが残っているのに、

「首都圏の人たちは停電の方が大事なのか」

とすごくショックを覚えました。

原発を動かした人たちが

「原発が危険だと困るから」

とそういう情報を流さないようにコントロールするということは、あとからわかったんですけれども、

「首都圏の人たちは何を考えているんだろう。この原発は東京電力の原発じゃなかったの？ 東京の人たちがみんな来て抑えてくれたらいいのに、子どもたちもここにいるのに」

とすごく思いました。

それからテレビからは情報を得ることができなくなりましたので、インターネットや本を読んだりして、毎日3〜4時間、放射能関係の勉強をするようになりました。

4月に入って

「学校が始まります」

という連絡が来てしまったので、子どもたちを仙台から呼び戻して、学校に通わせることにしました。

その時は学校を休ませるというの方が重大なことで、放射能というよくわからないもので、学校まで休ませていいものなのかというところが判断がつかなかったのです、

「学校が始まるということは大丈夫なんだろう」

ということもあって、とにかく心配だったのでマスクをさせて、長袖・長ズボンで、学校までは車で送るということだけはしようと思って、3人の子どもを学校まで送っていました。

4月19日に、

「学校の基準が毎時3・8マイクロシーベルト」

という発表がありました。

それまでは学校も

「子どもたちは外に出しません」

ということ、校庭での活動は控えていました。

あの発表があった後に、急に、子どもたちが今までどおりに。

「こういうことがあったのだから、今までどおり、通常の生活をさせることがすごく大事。3・8以下は体に影響がない」

ということになって、中学校の校庭は2・2マイクロ、高校の校庭は3・1マイクロとお便りにあったんですが、その校庭で運動をさせられることになってしまいました。

除染は夏休みが終わってからだったと思います。

福島市内の町中に高校が結構集中しているので、私は通勤でその横を通るんです。

保護者会で、校長先生が

「雨の日はやらせません」

と言っていたのに、雨の日でも、3・1マイクロの校庭で野球やラグビーをして、子どもたちが土にまみれて運動している姿を、胸が痛くなる思いで見っていました。

私の長男は高校3年生で部活はもうやっていますんでしたので、学校に行って話をするまではやらなかったんですが、中学校に対しては

「外で部活をさせないでほしい」と言いました。

でもやはり

「3・8以下なので」

ということと、

「ほかのお母さんたちがあまり気にされていない」ということがあって、部活はとまりませんでした。

私の娘は卓球部だったので、体育館と外と、週に半々ぐらいで活動していました。

「外でやる時は『塾だ』と言って帰ってきなさい」

と子どもには言っていました。

「校庭で走ったりするな」

という話をよくしていたので、外を走らなくちゃいけない時は、うちの子だけマスクをして走っていたみたいです。

米沢に避難した後に、部活の先輩にトイレに呼び出されて、

「なんであなただけ部活に参加しないの」

「マスクしているの」

と言われていたという話を、あとから聞きました。

福島ではマラソン大会とか、いろいろずっとやってきたこともありまして、女子マラソンとかいろいろありました。

気にされている県外のかたがたに

「マラソン大会を中止しろ」

とかいろいろ言っていたけど、私は正解だと思っていますけれども、福島の子どもたちは毎日、部活で走らされています。

みなさん、福島が20<sup>ミ</sup>リシーベルトの緊急事態を適用されているので、うちの中で過ごしていると思ったら間違っています。

小さな子どもたちのためには、市や県が

「外で遊べないから遊技場をつくります」

と、屋内で砂場や遊技をできる遊技場をつくっています。

なのになぜ小中高になると

「安全」

になって、部活をさせられなくてはならないのでしょうか。

被曝させないようにもできるのに、なぜ人為的に被曝させられなくてはいけないんだらうと、私はすごく憤りを感じています。

学校に言っても教育委員会に言ってもとまらなくて、

「もう福島の学校には預けられない」

と、思っ、米沢の学校に避難することを決めた次第です。

給食では、4月は岩手県産の牛乳が出ていました。

私も、それならということであまり気にしていなかったんですが、友人のお母さんから

「5月になったら福島県産の牛乳に切り替わった」

と聞いてびっくりして、子どもには

「給食の牛乳は絶対に飲んではだめ」

と話して、自分の子どもだけですけども、とにかく牛乳をとめました。なぜそんなに気にしていたのかと言うと、ほかの人から

「福島県産の牛乳の調査が変わった。今までは原乳をそのまま測っていたのに、今は会津産まで含めた牛乳を測って、『基準値以下だから』ということを出している」

と聞いていたからです。

そういうことをすること自体、信じられないということもありました。とにかく子どもには

「牛乳を飲むな」と。

給食も不安だったんですけども、食べさせないわけにもいきませんでした。

中学では部活があったので、水を水筒に入れて持たせようと思ったんですけども、学校から

「水筒は許可していませんので、水道の水を飲んでください」と言われました。

担任の先生に連絡したのですが、

「そういう話は教頭にしてください」と言われました。

学校が信じられない、子どもを安心して預けられないところになってしまったんだなど、すごくがっかりしたのを覚えています。

5月8日ぐらいに、福島の新聞に、

「県庁のところでストロンチウムが出た」

という記事が出ました。

ストロンチウムが出たというのはその時が初めてだと思います。

県庁と同じくらいの距離のところにはたくさん的高校があるので、私は県の放射線相談室に電話して、

「ストロンチウムが出ていますけれど、子どもたちは砂にまみれて部活をしている、大丈夫なんですか」

と質問したんです。

そうしたら、応対してくれた方は、県の職員ではありませんでした。

原子力なんとかというところからの応援の方でした。

その時に

「セシウムが出ているんですから、ストロンチウムが出ているのは当たり前です」

と言われました。

「子どもたちが白血病になったりしたらどうするんですか。責任取れないですよね」

と話したら、  
「国策で原発を進めてきたんですから、こうなったのはあなたにも責任があるんです」

と言われました。

その時に私は、

「嫌なことは嫌だ」

とはっきり言わないと、賛成していると思われるんだと、すごく思いました。

その時から

「原発は嫌だ」

とはっきり言わないと、国策で進めているから、みなさんは賛成していると思われるんだと思いました。

こういう活動を今しているのはそれがきっかけというか、そこであまりに憤ったからです。

小中学校は2011年6月に、危ないからじゃなくて、

「農作業に影響が出るので排水できない」

ということ、

「プールはやらない」

と決まりましたが、高校だけは6月中旬を過ぎても

「プールはやる」

という方針でした。

「冗談じゃない」

と思いついて、県議会議員や県の教育委員会に電話をして、

「なぜこの時期にプールをやらなくてはいけないんですか。原発が4基も爆発して、60キしかないところで、何を血迷っているんですか」

と話しましたが、

「やります」

の一点張りでした。

「そんなに入りたいなら、あなたが入ればいいんじゃない」

と話して、電話をばちんと切りました。

同じ子を持つ親と、そういう話ができない。福島は異常なのかと思いました。

私は子どもを転校させることができましたが、今まで学校を転校するというのは、転勤とか、外からの理由で転校させるということはありませんが、自分が危険だと感じているから子どもを転校させるということの大変さ。学校はその地域の人間のつながりも一緒に持っています。

子どももその中で生活をして、人間関係もあります。

そういう人間関係を断ち切って、私の判断だけでほかの学校に移すということが、どれだけ大変なことか、身にしてみても思いました。

私は主人にも相談せずに、自分1人で米沢のアパートを見てきて、決めて、主人には事後承諾で

「避難してもいい」

と言われましたが、その心理的な負担は、みなさんが考えている以上のものです。

なかなか避難しかねている福島の人たちの気持ちもすごくよくわかります。

ただ、子どもたちぐらいは、あんな高線量のところに置いてほしくないので、国や県が責任を持って避難させてほしいとすごく思っています。

私は、緊急時の20ミッシェルベルトが適用されている福島県内で通常の生活を送ることが正しいとはまったく思っていない。

そのことを福島県外の人にもよく知っていただいで、子どもたちがどういう状況に置かれているかを知っていただきたいと思っています。

その上で、日本の大人として、福島の子どもたちを、原発作業員と同じような20ミッシェルベルトのところにおいておいて、通常の生活をさせるということ、みなさんが納得されているのであれば、私もあきらめるんです。が、本当にそれが国民の総意なのか。

普通、自分の子どもや孫を福島県に連れてきて生活させることができるんです。でしょうか。

聞いてみたいと思っています。

日本はほかの国よりも教育レベルも高い、収入水準も高いと言われているのに、福島県の子どもが原発作業員と同じレベルのところにおいていて、それを何も気にしないような報道がされています。

それでオリンピックとかで浮かれている日本人に対して、私はすごく憤りを感じています。

本当に自分の知りたいことは自分で調べて、自分で考えて、

行動しなければならぬ時に来ています。

それは福島県だけの問題ではありません。

みなさんのお子さんやお孫さんたちと同じ時代を生きる私たちの子どもが、病気になるったり、

そういう差別を受けて生きていく。

自分はまったくそこに触らなくて生きていけると思うのか。

そうではないと思うんです。

必ずかかわってくると思うんです。

今なら防げると思うのに、どうして子どもがこのまま置かれてしまうのか。

か。  
すぐく残念だという気持ちです。

福島で今、子どもたちが人為的に被曝させられているんです。

「みなさん、なんとかしてください」

という声を上げたいと思って、今日も来ました。

国会議員も「少子化問題」とか騒いでいますが、今いる子どもたちを大事にしないで少子化対策もないと思います。

国会議員も県会議員も何もしてくれません。

電話も何回もしましたが、まったく動いてくれません。

そのところは、非常に失望しているところです。

今日来たもう一つの理由は、ふくしま共同診療所について、みなさんにご紹介したいと思ってきました。

私は去年の春、子どもの甲状腺を診てくれる病院を探すのがとても大変でした。

友達のお母さんからは、子どもたちが鼻血を出して病院に行つて

「放射能の影響ですか」

と聞いた時点で怒鳴りつけられたとか、

「甲状腺の検査をしてください」

と言った時点で

「できません。福島医大に行ってください」

と断られたという話を聞いていました。

「どこに行ったらいいんだろう。でも県の検査にはとても連れていけない」

と書いていましたので、本当に必死で探しました。

ネットとかで明らかにしてしまうと、その病院に対するバッシングもあるので、口コミでなんとか教えていただいて、その病院に行くことができませんでした。

娘2人を去年6月に連れて行きました。

3月16日に避難をしていたので、

私は

「大丈夫だったよ」

と先生に言ってほしくて、行きました。

結果は、

娘2人とも3ミリの嚢胞がありました。

その結果を聞いた時にショックで、

涙が出てしまつて、泣きそうだったんですが、目の前に子どもがいたので泣くこともできませんでした。

「とんでもないことを子どもにしてしまった。私が原発や放射能に対する知識があれば、もっと早く逃がしてあげられたのに」

と、後悔ばかりしています。

私たちは、闇雲に子どもの甲状腺検査をしてくれと国や県に言っているわけではありません。

放射性ヨウ素やセシウムが飛んだから、原因があつたから心配しているだけなのに、

「そんなに検査する必要はない。大丈夫」とか、

「ガンになつても、それは放射線の影響ではない。その子が本来持っていたものだ」

と言われると、

本当なのかなと。

それを断定することはできませんが、それが本当なのかと疑つてしまいません。

ものすごい量のヨウ素が飛んだんです。

それはNHKのテレビで見ました。

そうしたら、

「放射線が影響しているかもしれない」

ということ、なんとかかしてくれてもいいのに、

「大丈夫、大丈夫」

という話ばかりされると、余計に不安がおおられます。

「ほかの病院になんとかしてもらいたい」

と思つていたところに、ふくしま共同診療所を12月に開院するという話を聞きました。

県の甲状腺検査は、A1とA2、B、Cの4種類に分かれて結果が来ます。

その時の検査には親は同席できず、写真ももらえません。

1〜2カ月後に、紙1枚が送付されてきて、

「A2なので、二次検査は必要ありません」

という一言だけです。



保護者から

「心配だ」

という声がたくさん上がり、福島医大で

「その結果に対する説明会を11月にやります」

ということでした。

私は自分の子どもは受けさせていませんでしたが、その説明会に行っ  
てみました。

そうしたら鈴木眞一教授は

「チェルノブイリでは4〜5年後に発症しているので、今回のガンにつ  
ては放射能の影響ではない」

ということと、

「甲状腺ガンは予後のいいガンです。5年後の生存率も高い」

という話をされました。

「予後がいい」

とかいう話をされて、親として

「ふざけるな」

と思いました。

ガンはガンなんです。

松本市の市長に去年11月に講演依頼に行った時にお聞きした話によると、  
チェルノブイリでは、甲状腺ガンにかかった子どもの6〜7人に1人が肺  
に転移したという話も聞きました。

早く検査してくれて、とにかく早く、手遅れにならないようにしてもら  
いたいという思いだけで言っているのに、

「切ればいいんです。予後は大丈夫です」

なんて、子どもの喉にメスを入れられる親の気持ちが変わりますか、と。

子どものせいではなく、私たちのせいでもなく、原発のせいですよね。

放射能のせいじゃないんですか。

それを防ぐヨウ素剤の配布もせず、SPEEDI（緊急時迅速放射能影響予測  
ネットワークシステム）の情報も公開せず、そこにいさせられてしまった  
私たちにそういうことを言うのか、と。

すごい憤りを覚えました。

その時には、

「ふざけるな」

と質問もいっぱいしてきましたが、

「4年後、5年後」

という話しかされませんでした。  
先月には子ども3人が甲状腺ガンで、7人にガンの疑いがあるという報道も出ました。

どれだけの犠牲が出れば、放射能の影響だと認めるんでしょうか。

福島医大に任せていたら、そういう影響は隠されてしまうし、広島でもそうだったと聞きました。

結局、私たちの中の何人かが犠牲にならないければ

「放射能は危ない」

ということにはならない。

そこからしか子どもたちの避難も始まらない。

子どもたちの避難が始まらなければ、原発が危ないということにはならず、原発は止まらないと思っています。

私はふくしま共同診療所の先生たちに、放射能の人体に対する影響を明らかにして

「危ない」

と言っていたら、子どもたちを疎開させてほしいとお願いしています。

昨年12月から開院して、頑張っていたいています。

病院もすぐきれいですし、先生たちもスタッフの方たちもとてもいい方たちで、私も安心して子どもたちを連れて甲状腺の検査をしていただいています。

やっと12月に開院したばかりの、大切な診療所に対するバッシングが始まってしまいました。

私は、最初は何が起こっているかわかりませんでした。

建設された方たちの中に中核派が混じっているという理由で、診療所に対するバッシングが始まりました。

私が属している団体のメンバーリストにも

「中核派がかかわっているから、紹介しない」

「中核派は怖い」

というメールが流れてしまいました。

私は建設してきた人たちを知っているものですから、もう許せなくて悔しくて、泣いていました。

私がふくしま共同診療所の人たちを見るようになったのは去年夏でした。

「診療所の説明会があるので、受付を手伝ってほしい」

と言われたことがきっかけでした。

そこから、

「福島のお母さんたちの声を聞きたい」

と打ち合わせにも何度か出て、先生たちの考え方や、建設される方がたの考えをよく聞いてきました。

本当に福島のことを心配して、どうかしようという思いでやってきていると思いました。

それなのに、何も知らない人たちからそういうバッシングを受けて、

「福島の人たちが診療所を敬遠することになってしまったら、どうしてくれるんだ」

とすごく思いました。

私は、その批判を聞くまでは、中核派というのがどういふことなのかもさっぱりわかりませんでしたし、多分、私より若い世代の人たちはまったくわかっていないと思います。

今批判されている方に言いたいのは、

それが今の事実なのか、と。

過去のことと今を否定しないでほしいということです。

過去に何もしてこなかった人もいないでしょうし、刺激的な言葉でいろいろ言われるので、びつくりされる方もいらつしやると思いますけれども、私が見てきた人たちはとてもすばらしい人たちです。

あの人たちがいなければ、福島に診療所はこんなに早く建たなかったし、診療所自体、建ったかどうか知りません。

中核派という話を出して、反原発で私たちがまとまろうとしているのを分断させたいのかなと。

本当に福島は今、そのお陰で分断されかかっています。

でも問題はそこじゃない。

子どもを守らなくてはいけないという目的のためにまとまらなくてはいけないのに、過去のこととで大人が怖いとか言っている。

「あなたは何が怖いのか？ 放射能の方が怖いでしょう？」と私は言いたいです。

目的がぶれてしまつて、今ちよつと福島の中がばらばらしてしまつていふという状態です。

診療所のことを批判されるのであれば、

「私たちのために、あなたがたが診療所をつくってくれるんですか。信頼できるお医者さんたちを連れてきて、やっていただけれるんですか」と聞きたいです。

何もせずに口だけで攻撃するのは卑怯だと思います。

私たち母親が子どもたちのためにどうしても必要だと思つているので、私も支えようと思つています。

それなのに外から、言葉だけで攻撃してくるといふのは、とても許せることではないと思つています。

はつきり言って、批判されている方が100人いても200人いても、子どもの甲状腺の検査の一つもできないと思います。

いくら言葉を尽くしても、

一人の子どもの命も救えないと思います。

私はそんなことを言われることよりも、診療所の先生の一人ひとりがとても大事です。

その人たちを傷つける人たちはとても許せません。

その方たちは、私たちに対して、あの信頼できない福島医大に行けと言っているのと同じようなことを言っていると思っと思っています。

私たちは今、子どもたちのこととか、いろいろ大変で、生活も二重三重になっっていて、心身ともにとても疲れているんですけれども、こんなことにエネルギーを割かれるのが、とても憤りを感じているところです。

福島の医者は逃げてしまった方もいらつしやいますし、福島医大の言うことを聞く人たちが大半です。

本当に少しは良心的に診てくれている人もいますが、その方たちもあまり名前は出していません。

やはりバッシングをされるからです。

福島医大と対決してくれる、顔も出して名前も出して、その存在を明らかにしてやってくれているふくしま共同診療所の価値を、みなさんにもよくわかっていただきたい。

福島の母親が必要としているので、本当にバッシングはやめてもらいたいと思っています。

先生たちも、自分たちの病院も犠牲にして、毎週福島に通ってくれています。

日本中、世界からも募金が集まっています。

世界からも支援されていて、建設する時も本当に大変だったと思いますが、実際に建設して、その責任を負ってくれている人たちもいます。

その人たちに対してあまりにも失礼な言い方です。

私は診療所を批判している方たちに直接面と向かって、

「あなたは何を考えているの」と言ってやりたいと思います。

福島は

今、

本当に戦争中のような状態です。

自分の思っていることもろくに言えず、みんな我慢して、

普通の顔をして生活させられています。

子どもを守るための診療所が一番大切なのに、いわれのない言葉の暴力を受けていると思っています。

私は米沢に避難していますけど、福島だけに限らないことだったということに気づきました。

米沢でも放射能の影響でお医者さんにかかることはなかなか難しいです。自分が避難してきた米沢で

「子どもに影響があるかもしれない」

ということを明らかにするのも、私もつらいです。

米沢のお医者さんは余計、放射能に対する知識も勉強していないと思っていますので、ふくしま共同診療所の先生たちが、放射能の影響を勘案しながら診療してくれて、それをほかのお医者さんにも広げてくれようとしている、そういう意義もありますので、この診療所だけはつぶされたら本当にとっても困ります。

診療所の価値は私たちが決めると思っています。

ほかから何を言われようと、私は診療所を守っていこうと思っています。母親としては、中核派なんかより、余程、福島医大や国や県の方が恐ろしいです。

診療所を批判することは、そこにつながっている子どもの命を危険にさらすことにつながるということをよく考えて発言してもらいたいと、痛切に思っています。

最後になりますが、私たちは原発が爆発した時も、放射能が大量に流れた時も、情報も教えられず、ヨウ素剤も配られませんでした。

その上、被曝した後、

「年間100ミリシーベルトまで大丈夫」

と言う人たちがたくさんやってきて、

安全キャンペーンを流されて、

「危険だ」

と思う人たちと、

経済を優先させたい人たちが

人間関係も壊されて

ずたずたになりました。

放射能が危険なものだと思いき知らされないと、原発はとまらないと思っています。

首都圏の人たちにわかってほしいのは、

今の生活が

誰かの犠牲の上に成り立っている  
ということ です。

福島第一原発で今、高線量の中で作業している作業員たちや、避難もさせてもらえずに福島にとどめられている子どもたち、そういう犠牲の上に、そういう人たちを踏みつけて今の生活が成り立っているということをよく考えてもらいたいと思います。

電気の話なんですか。

原発をやっているのかと、本当に考えてもらいたいとすごく思っています。

福島でも事故後に

「第二原発を動かす」

とか

「新たな原発を建設する」

という恥知らずな記事が新聞に載ったりもしました。

本当に許せないという思いでした。

本当に原発を動かしたくて、建設したいんだったら、東京湾につくってもらいたいと私は思っています。

別に私は原発をつくってほしいとは思っていませんが、私たちが反対する力はとても小さくて、首都圏の方がたが、自分たちの身に置き換えなければわからないのだろうと思っています。

今の原発は人口密集地から離れたところからつくられていますので、

「自分たちは大丈夫だ、安全だ」

と思われているかもしれませんが、放射能はどこまでも飛んでいきます。

東京も安全ではなかったということが、あとになってからわかったと思います。

自分のこととして、

自分の子どもではないけれども、

子どもたちが

この日本で被曝させられているという事実を

みなさんに知っていただきたい、

一緒に原発をやめたい、

子どもたちを避難させたいという声を

一緒に

上げてもらえれば、と思っています。

今日はありがとうございます。

(この発言は2013年3月17日、原爆の凶丸木美術館特別展示『壺井明 無主物』トークイベント『福島の現状ととりくみを知る』においてある福島市民の女性によりなされた。発言内容を重視し、ほぼ編集せずに掲載した。)



絵本 無主物 初版  
2013年4月発行  
製作 壺井明  
協力 原爆の図丸木美術館ほか

<http://dennou.velvet.jp>

